

河川環境保全を中心としたまちづくり NPO 団体の活動事例とその評価
—徳島市新町川を守る会を題材として—

Activities and their evaluation of a NPO group on town planning and river environment reservation
— Focus on Shinmachi Gawa wo Mamoru Kai in Tokushima city —

中村泰基* 島博司** 山中英生***
Hiroki NAKAMURA Hiroshi SHIMA Hideo YAMANAKA

ABSTRACT

In recent years, various kinds of activities on town planning have been carried out by the residents themselves. In order to support these activities, appropriate social systems are necessary. As one of these systems, NPO is expected. In this research, a NPO named "Shinmachi Gawa wo Mamoru Kai" is focused from viewpoints of the present problems and the evaluation of their activities. Although many volunteer group and NPO group have their weakness in maintaining their activities, Shinmachi Gawa wo Mamoru Kai's is keeping vital activities. By employing the questionnaire survey to the member and interview of leader's of Shinmachi Gawa wo Mamoru Kai, the author make clear their characteristics and problems for the future development.

Keyword : NPO group on town planning, river environment reservation

1. はじめに

近年、住民の手による「まちづくり」が、全国各地で多彩に繰り広げられている。こうした「住民の手によるまちづくり」を支えるには、それに対応した「適切な社会システム」が必要とされている。そのシステムの一つとして NPO（民間非営利組織）に期待がよせられている。こうした NPO はまちづくり活動を行うボランティアグループの組織化や社会的信用度を高めるものとして期待されている。しかし、実態としてはまちづくり NPO の多くは、十分な組織や資金をもつに至ってないと言われる。

本研究では、河川的环境評価をきっかけとして清掃活動を中心に始まったまちづくりボランティアグループである「新町川を守る会」（平成 11 年 NPO 資格取得）の活動に着目した。この会に着目した理由は、組織という点では必ずしも十分とはいえないとされながら、その活動の多彩さや活動量の多さから見て突出した存在であることからである。ここでは、その活動の実態把握とともに、構成メンバーへのアンケート調査とリーダーグループへのヒアリング調査をもとにして、まちづくりにおける活動の評価と組織上の課題を分析した。

* 徳島大学大学院工学研究科建設工学専攻

Department of Civil Engineering, Graduate School Engineering, The University of Tokushima

** 集環境計画

Syuu Environment Planning Office

*** 徳島大学工学部建設工学科

Department of Civil Engineering, The University of Tokushima

2. NPO 法人・新町川を守る会の概要

2.1 発足と発展の経緯

徳島市内中心部を流れる新町川は、高度経済成長期に主に産業活動により水質汚濁が進行し、昭和 42 年～48 年にかけては、新町橋では BOD（生物化学的酸素要求量）で 10mg/l を超える程水質が悪化していた。このため、行政の努力により、工場・事業所に対して、排水規制が実施されるとともに、下水道の整備が推進され、BOD で 4mg/l と改善が図られた。その後、主要な汚濁発生源だった生活排水についての対策が進められ、この結果 2～3mg/l と改善された。一方、こうした行政活動に呼応する形で、新町川周辺の住民が、ボランティア活動としての河川の清掃運動を行っていたが、これを集結する形で平成元年 3 月 28 日「新町川を守る会」が結成された。会として健全な発展をするために、平成 11 年に NPO 資格を取得した。現在では、会員数は 220 人になり、河川の清掃の他に川への市民の関心を集め、川の環境保全に対する市民意識の向上を目指すとともに、新町川の流れる市中心部の活性化を目標として、河川沿いの護岸での花壇の整備やイベントコンサート等の各種活動を展開している。

2.2. 会の活動内容

この会は、地域住民に対して、河川環境の向上とまちづくりに関する活動を行い、地域社会に寄与することを目的としている。表-1 は、この会が行っている活動の内容について整理したものである。

活動内容は、新町川の清掃等河川環境向上のための活動、遊覧船の運航や川沿いでのコンサートなどのイベントを行い、新町川等の水辺に人々が楽しめ、にぎわいのある場所とするための活動に分けられる。このように活動のフィールドは市内中心部の新町川水系と市中心の北側を流れる吉野川に分けられる。まちづくりとしては「にぎわい創出」のための活動に注目が集まっている。一方で地道な清掃活動が長年にわたって継続されており、その参加者が常に維持されてきた点が重要である。

3. 会員への意識調査からみた活動状況

3.1 調査の概要

会の運営は、リーダーとして会の事業の率先者である理事長を中心に、副理事長 3 人と理事 3 人と監事 2 人と事務局長 1 人の約 10 人のリーダーグループが中心となっている。組織としての活動維持に悩むボランティアや NPO の多い中で、組織の活動、システムやリーダーシップのあり方に、どのような特徴が新町川を守る会にはあるのかを本研究ではメンバーへのアンケートとリーダーグループへのヒアリングからその点を分析することにした。なお、このアンケートには上記のリーダーグループは含まれていない。

会員の実態把握、活動の実態把握、会についての意見、活動参加時間、会と中心市街地との関係について把握するために会員に対してアンケート調査を行った。このアンケートは香川大学と(財)日本グラウンドワーク協会の協力を得て行ったものである。会の個人会員 193 人に 1999 年 10 月下旬に郵送で配布した。回収票は 70 部で回収率は 36.3%であったが、回収された 70 人は会に対して積極的な貢献者層を代表しているといえる。

3.2 会員の属性分布

図-1 は回収サンプルの会員の属性分布を示している。

会員の年齢は、10. 20. 30 代の若年層は 24%と比較的少なくなっており、40. 50 代の中年層は 47%、60 歳以上の高齢者は 29%となっている。

職業は「商業、サービス業」が最も多く 25%となっており、これは、商店街のメンバーが中心となってこの団体が結成された経緯も影響しているが、比較的時間が自由となる職種であることも理由であるといえる。そして、次いで多いのが「公務員」で 21%となっており、行政との良好な関係が維持されている事が背景にあるといえる。

居住地は、徳島市の中心部で約 30%、他の徳島市内は約 60%と徳島市内が大多数となっている。

3.3 入会時期と関心事

入会時期では、平成 11 年に入会した層が最も多く、23%となっており、他の年に比べ約 2 倍近く多い。この会は、平成 11 年 7 月に NPO 法人として認証され、法人格を得ることによって対外的信用が高まったことが平成 11 年に多くの人が入会した原因と考えられる。

図-2 は会員が入会するにあたって関心があったことの集計結果である。「地域の環境改善」、「河川の環境改善」という環境改善に関する項目が最も多く、全回答数の 43%となっている。会員の環境意識の高さが伺える。以上より、会員の属性のキーワードとしては、「40 歳以上」「商業者」「徳島市内」「環境に対する意識」が挙げられる。

表-1 新町川を守る会の年間活動状況

	活動名	活動内容	実施日時	実施場所	従事者人数	受益対象者及び予定人数
河川環境の向上活動	新町川の清掃	川の浮遊ゴミをボートに分乗した会員が網ですくい取り回収し、廃棄場所に運ぶ	毎月 1 日と第 3 土曜 13:00 ~ 15:00	新町川・田宮川・助任川流域一帯	7~15 人	新町川・田宮川・助任川周辺地域住民
	田宮川の土手花壇の管理	河川土手に整備された花壇に本会が植えたアジサイ、ツツジ、チューリップの手入れ	毎月第 2 以外の日曜日 7:00 ~ 9:00	徳島市北佐古田宮川土手約 800㎡	約 10 人	田宮川周辺の地域住民
	吉野川アドプトプログラム推進	吉野川の河川清掃ネットワークを作り、決められた範囲を本会が年間を通じ清掃	毎月第 2 日曜日 8:00~10:00	吉野川下流域設置区間	約 50 人	区間が未定の為人数不明
	吉野川クリーンアップ大作戦	吉野川フェスティバルと連動して開催、吉野川下流域一帯の大清掃を行う	7 月 31 日	吉野川下流河川敷一帯	約 10000 人	吉野川流域住民
河川のにぎわい創出活動	ひょうたん島遊覧船の運航	新町川・田宮川・助任川、延長約 6Km のコースを本会所有の遊覧ボート 2 隻で周遊する	毎日 13:00 ~ 16:00	新町川・田宮川・助任川流域	4~15 人	年間約 20000 人
	吉野川フェスティバル	本会が中心となって実行委員会を形成し、吉野川下流域一帯において、イベントを開催	7 月 30 日~8 月 1 日(3 日間)	吉野川下流河川敷一帯	約 500 人	約 30000 人
	吉野川クルージング	新町川より吉野川に向けて本会所有の遊覧ボートを運航	夏季土・日曜の他不定期で運行	新町川・吉野川	2~5 人	年間約 100 人
	津田とれとれ市買出しクルージング	徳島市津田漁港倉庫で毎月第 2 土曜日に開催される市の買物客の郵送と遊覧を行う	毎月第 2 土曜日 6:00~10:30	新町川水際公園→津田漁港	約 3 人	約 500 人
	田宮川の土手アジサイのライトアップ	アジサイの開花に合わせ夜間のライトアップするため照明設備を設置し点灯	6 月~7 月	徳島市北佐古田宮川土手約 200㎡	約 10 人	田宮川周辺の地域住民
	助任川緑地公園の提灯と夜間照明の設置	阿波踊りの練習風景を楽しんでもらうため本会で夜間照明を設置し点灯	7 月~8 月の 19:00~22:00	徳島市前川町助任川緑地公園	約 10 人	助任川緑地公園周辺の地域住民
	ひょうたん島ボートレース	新町川・助任川の延長約 6Km を手でこぐのボートレースを行う	7 月 25 日	新町川・助任川	約 15 人	約 300 人
	観月演奏会	新町川において中秋の名月をバックに雅楽の演奏会を行う	中秋の名月の夜	新町川水際公園特設ステージ	約 10 人	約 1000 人
	川からサンタがやってくる	新町川・田宮川・助任川流域の子供たちに、ボートに乗ったサンタクロースがプレゼントする	12 月 23.24.25 日 18:00~21:00	新町川・田宮川・助任川流域	50 人	約 10000 人
	寒中水泳大会	新町川において寒中水泳及び、古式泳法、寒中阿波踊り等を行い、ぜんざいを振舞う	1 月 11 日	新町川・新町川水際公園	30 人	約 3000 人

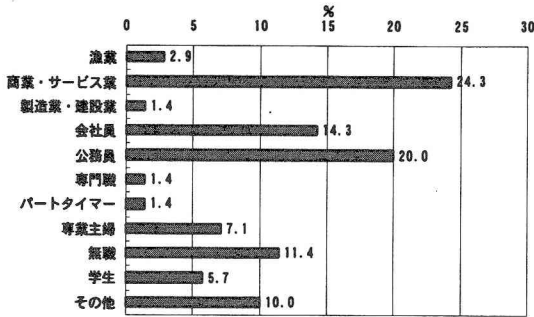


図-1 アンケートサンプルの属性

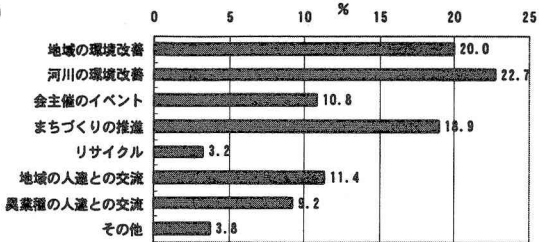


図-2 入会するにあたって関心があった事

4. 活動量のちがいによる活動評価意識

4.1 会の活動への参加時間からみた会員のグループ化

「会の活動に月にどれくらい費やしていますか？」の質問では、約半数の人が「参加していない」と回答し、会の目的などに賛同し、会費だけ納めている会員や時間的都合などにより参加できていない会員が全会員の半数であることが分かった。逆に、常に週に1回以上会の活動に参加している会員が全体の約5%おり、この5%の会員が会のコア的存在になっていると思われる。

ここでは表-1に示した14つの会の活動への参加状況を元に活動量を点数化した。「ほとんど参加」を2点、「まあまあ参加」を1点として合計点を会員について算出した。この合計点が0点は活動なし、1～4点は活動量：低、5～9点は活動量：中、10～23点は活動量：高として活動量別にグループに分けた。

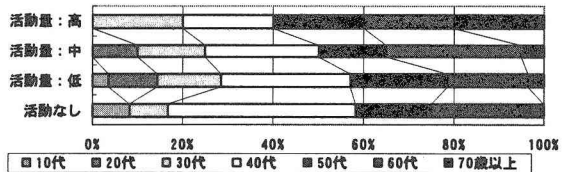


図-3 活動量別の会員の年齢

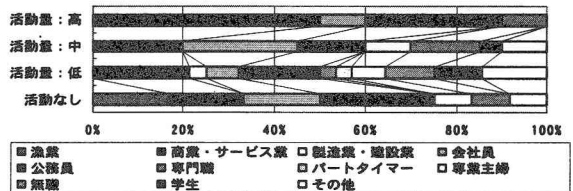


図-4 活動量別の会員の職業

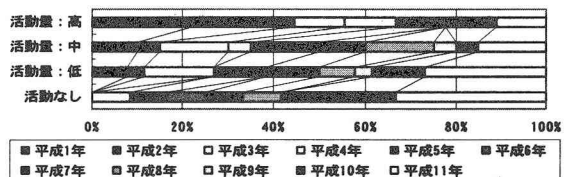


図-5 活動量別の会員の入会時期

4.2 活動量別にみた会員の属性

図-3より50歳以上に「活動量：高」のグループに属している人が多く、また、図-4より「活動量：高」を職業別に見ると、商業者が多くなっている。比較的時間が自由となる職種があることが理由であるといえる。図-5より入会時期別では、早く入会し長年活動を続けている会員ほど、活動量が多いといえる。以上より、活動量の多い会員の属性のキーワードとして、「50歳以上」「商業者」「入会時期が早い」が挙げられる。

4.3 活動量別にみた意識

図-6.7より「入会したきっかけ」、「入会した目的」には活動量別による大きな差は見られないが、図-8より「入会して良かったと感じること」では、活動量が多い会員ほど「達成感や充実感を得ることができた」と答えている。また、図-9より「今後の会の発展に必要なと思う事」には、活動量が多い会員ほど「誰でも参加できるように」と答え、活動量が少ない会員ほど「広報、普及活動」「ボランティア研修できる機会の提供」答えている。これより、多くの会員の参加が募れて、会の活動を開かれた場とするために、情報提供を的確に行うことが望まれる。

一方、図-10.11に示すように活動量が多い会員ほど、会の活動が中心市街地のイメージアップや人集めに貢献していると答えている。全体として活動に参加し、会の活動状況を知っている者ほど会の活動を評価している。活動していない人は、評価が下がる傾向は見られるが、全体として会の活動に対する評価は高いと言える。

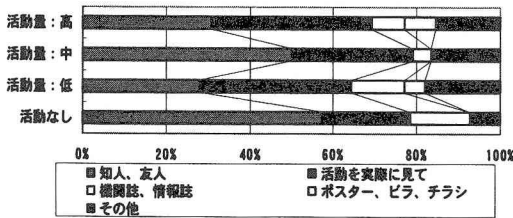


図-6 活動量別の入会したきっかけ

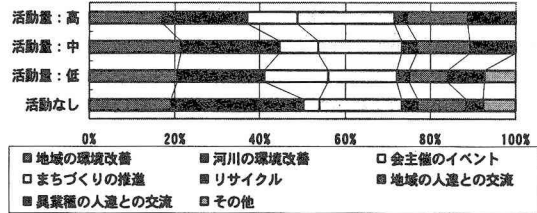


図-7 活動量別の入会した目的

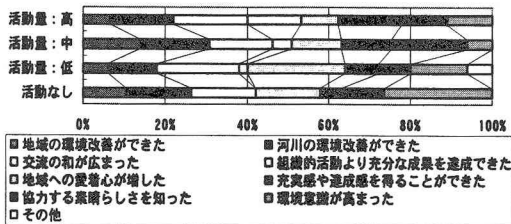


図-8 活動量別の入会して良かったと感じる事

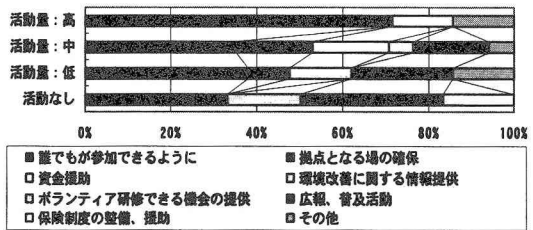


図-9 活動量別の会の発展に必要なと思う事

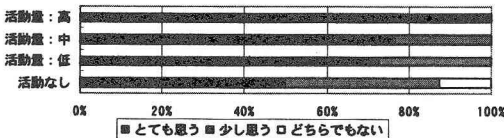


図-10 活動量別の中心市街地のイメージアップ貢献度

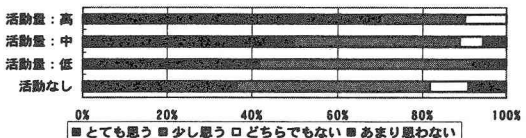


図-11 活動量別の中心市街地の人集め貢献度

4.4 会の活動と中心市街地の関係について

「会の活動が徳島市の中心市街地のイメージアップに貢献していますか?」「会の活動が徳島市の中心市街地の人集めに貢献していますか?」の両方の質問では図-12に示すように約90%の人は効果があると答えている。また、イメージアップや人集めに貢献していると答えている人は、ボランティアに費やしている日数が多い人や新町川を中心としたまちづくりに関心がある人である。

4.5 会の今後の発展について

「会に入会して良かったと感じることは?」では、「人との交流の輪が広まった」、「地域への愛着心が増した」、「河川の問題を改善することができた」という回答が多く、逆に「組織的に活動することにより十分な成果が達成できた」は少なくなっており、これより、団体としてまだ充分には組織的活動することができていないといえる。

また、「町並み保全等による地域の景観形成」と「リサイクル活動、ゴミを出さない運動」という活動に多くの人が関心を示しており、会員は「環境改善」と「まちづくり」に対する意識

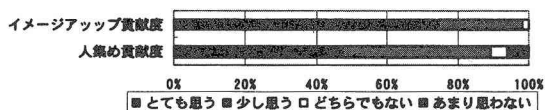


図-12 中心市街地のイメージアップ・人集め貢献度

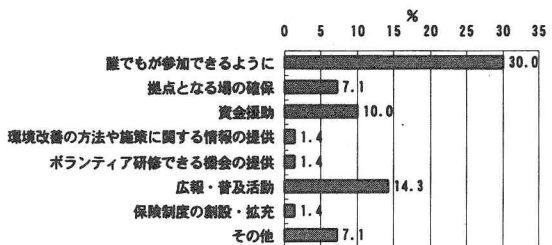


図-13 会の発展に必要な事

が特に高いことが伺える。

「会の活動の発展にはどのような事が必要だと思いますか？」という質問には「誰でも参加できるように」という項目が最も多く、有効回答数の41%となっている。これより、会の活動を開かれた場にする事が望まれる。次いで「資金援助」という回答が多かった。

5. リーダーグループからみた課題

6月中旬に、この会の中心人物である理事長と3人の副理事長と理事2人と監事1人に会の組織体制についてのヒアリング調査を行った。

「活動が続ける理由」と「活動が維持されているカギ」としては、リーダーの資質の高さを多くの人が挙げている。そして、「仮に理事長が居なくなれば」という質問をしたところ、一時凌ぎなら可能であるが、活動を継続することは難しいと多くが答えている。

これより、会の中心人物の多く人が、「活動が続ける理由」と「活動が維持されているカギ」に理事長の資質を挙げており、殆どフルタイムで動いている理事長が居なければ会の継続は難しいと考えている。この会は理事長を中心とした人のつながりによって発足した事が理由であるが、一面ではバックアップ組織の脆弱さがみてとれる。

一方、理事長は、まちづくりの実現という目標のために、毎日多くの時間を割いて活動しており、責任感を持って活動している。

会の組織体制については、「充分ではないが、今のままで良い」と「きちんとした組織体制である」と「組織として機能していない」の3つの意見に分けられた。「充分ではないが、今のままで良い」と答えた人の理由は、行動の方が重要だと考えており、外的要因に束縛され、自由に活動できなくなる事に危機感を持っている。一方、「組織として機能していない」と答えた人は、役割分担を明確にし、組織的に活動することにより十分な成果をあげる事を期待している。

今後の発展のための会への提言として、資金の確保、パンフレットや機関紙の作成、会員証などを作り会員に対するケアをきちんとするや事務局体制の強化が挙げられた。資金の確保については、助成金を申請している人達が必要を唱えている。以上から見ると、財政的基盤の確立、情報提供、役割分担の明確化が会への提言として重要視されるといえる。

会員アンケートからも役割分担を明確化し、組織的に活動を行う事。情報提供を幅広く、早く行い、誰でもが参加できるように会の活動を開かれた場にする事。財政的基盤を確立する事が挙げられたが、ヒアリングにおける会への提言でも、同様の認識が得られたといえる。

6. おわりに

住民主導のまちづくりNPO団体が、年間約900万円の予算で14種類の「河川環境の向上活動」と「河川のにぎわい創出活動」を行って、その活動に対して一定の成果をあげており、長年にわたって活動が継続されている点が評価される。また、活動に参加した会員は、地域への愛着心や環境に対する意識が向上している点も評価できる。

活動量の多い会員の属性は、比較的時間が自由となる50歳以上の高齢者や商業者が多く。また、早い時期に入会し、長年にわたって活動をしている会員ほど活動量が多くなっている。そして、活動量が多い会員やまちづくりに関心がある会員は、会の活動が中心市街地のイメージアップや集客力、まちづくりの関心を高めることに貢献していると答え、会の活動を評価している。

今後、組織体制については、役割分担を明確化し、組織的に活動を行う事。情報提供を幅広く、早く行い、誰でもが参加できるように会の活動を開かれた場にする事。財政的基盤を確立する事の3点が会の今後の発展には不可欠だと考える。

今後の課題は、イベントによる集客効果調査などの活動の客観的評価を行うと共に、会の問題点の一つである情報提供については、中心市街地の住民を対象として、会の認知度のレベルについて調査する事を考えている。